

生活者・生産者をむすぶ生活クラブ（エス）を楽しみ、参加する（エンジョイ&ジョイン）ための情報提供がジョイエスの役割です



6月15日の通常総代会では4年ぶりに来賓と100人以上の総代が実出席し、活発な質疑が行われました（関連記事 P2）

【鼎談】

都市農業は人と地域をつなぐ
新しい農業のかたち

P3-5
特集

生活クラブ提携都市農家の会「農（みのり）」理事・提携生産者 島田尚美さん
生活クラブ提携都市農家の会「農」事務局 野島延子さん
生活クラブ東京 副理事長 豊崎千津美さん

P2 第55回通常総代会報告

P6 イベント案内（展示会・協同村・生活クラブの学校）

P7 リレーコラム「銀鮭に飼料用米！」
わたしの声 Q & A・わたしの声カードなど

P8 音訳ボランティアグループ Yomu^{よむよむ}
情報のバリアフリー化をすすめよう！

組織の概要（2023年6月末現在）

- 組合員数（デポ一含む）92,819人 ● 6月度加入 805人/脱退 764人
- 6月度利用高 18億138万円/世帯当り 24,801円（デポ一除く）



今年もやります! Let's Try!

夏限定 紹介キャンペーン

サステイナブルフェス! 期間中
お友だちに生活クラブを紹介して
温州みかんジュースを気楽にお試し♪

2023年
8月31日まで

今なら、わたしもお友だちも
温州みかんジュースを
プレゼント!

サステイナブル
フェス! Sustainable
Festival 2023





とよき ちづみ 豊崎 千津美 さん
生活クラブ東京 副理事長



のじま のみこ 野島 延子 さん
生活クラブ提携都市農家の会「農」事務局



しまだ なおみ 島田 尚美 さん
生活クラブ提携都市農家の会「農」理事・提携生産者

都市農業は人と地域をつなぐ 新しい農業のかたち

国は2015年に都市農業振興基本法を制定し、都市の農地を「宅地化するもの」から「あるべきもの」へと大きく方向転換しました。しかしながら都内の農地面積は減少の一途をたどり、2019年の東京都内のカロリーベースの食料自給率は0%（農林水産省WEBサイト）となっています。その一方で、気候危機や世界情勢の変化などにより、食料を輸入に頼ることへの危機感が高まっており、地産地消の取組みが注目されています。

生活クラブ東京は設立当初より、都市近郊の農地を守り育てる取組みとして地場野菜を共同購入してきました。2000年からは「新鮮で安全な食料産地の形成」と「都市農業の多面的機能をいかしたまちづくり」を農業政策の方針に掲げ、都市近郊の提携生産者と組合員との連携を続けています。約半世紀に渡りつくりあげてきた生活クラブ東京の取組みを織り込みながら、ローカルSDGsの実践としての都市農業の未来を考えます。

島田 はい。江戸時代末期ぐらから世田谷区千歳台で農業を続けています。米がとれず麦畑と野菜畑が主な地域だったこともあり、農産加工として大正時代に電動式の製粉機を導入して製粉業を始めました。その時代から製粉業を本業とした兼業農家となり、竹林や果樹園を中心に農業や肥料をあまり使わない農業をしてきました。昭和30年から40年頃より無農薬栽培を続けています。先代の義父か

島田 デポセタがやが開所した

都市農業を守るのは地域の人のつながり

江戸時代からの農地を受け継いで

豊崎 私は東京の北西部にある「多摩きた生活クラブ」で活動をしてきて、数年前に東京の「食と農」政策委員として、都市農業に関わり始めました。今日はこれまでの経験も踏まえて、今後のことを一緒に考えたいなと思っています。島田さんは世田谷区で農業をされているんですね。

島田 はい。江戸時代末期ぐらから世田谷区千歳台で農業を続けています。米がとれず麦畑と野菜畑が主な地域だったこともあり、農産加工として大正時代に電動式の製粉機を導入して製粉業を始めました。その時代から製粉業を本業とした兼業農家となり、竹林や果樹園を中心に農業や肥料をあまり使わない農業をしてきました。昭和30年から40年頃より無農薬栽培を続けています。先代の義父か



生活クラブ東京 第55回通常総代会報告 明るい未来に向けて 「会って語って伝える」仲間づくり

6月15日、総代定数300人の内、269人（内、書面158人・委任状3人）の総代の出席と32人の来賓の臨席により第55回通常総代会が開催され、全議案が可決承認されました。役員選挙について報告され、増田和美理事長と池田勝利常務理事が退任し、新たに加瀬和美副理事長が理事長に、豊崎千津美理事が副理事長に、鈴木崇大常勤理事が常務理事に就任しました。



増田和美理事長

冒頭、増田理事長より開催挨拶として、コロナ禍により自粛をしてきた「組合員同士が出会う」活動が再開し、総代をはじめとした組合員が活動の主体となることへの期待を述べられました。最後に「東京の約9万2千人の組合員全員が、1人ずつ紹介をする力をもって仲間を増やし、利用を高め、生活クラブ運動をひろげていきましょう。『一人』の組合員が『一人』の知人に伝える、という活動の重要性が増えています。誰もが安心して暮らせる地域社会の実現

をめざして共感をひろげ、おおぜいの主体者をつくり、活動を楽しくすすめていきましょう」と結ばれ、活発な討議を総代に呼びかけられました。続いて来賓の東京都生活協同組合連合会の村上次郎会長理事と、生活クラブ運動グループの環境まちづくりNPOエコマッセ中村映子事務局長より挨拶をいただきました。

FEC 自給圏と働く場づくりを基本テーマに 居場所と出番のある組織と地域社会づくりで「ローカルSDGs」の実現をめざそう！



墨田区内での拡大（北東京）

第1号議案

加瀬副理事長より、2022年度の活動・事業が報告され、決算・剰余金処分について承認されました。組合員拡大（配送・デポ）は、加入8,719人、脱退8,554人、期末組合員人数91,463人となりました。墨田区内と港区台場の配送エリア拡大や外部イベントへの出展、Let's TRY紹介キャンペーンにあわせた組合員への紹介呼びかけなどを通して、拡大活動を推進しました。利用実績は拡大計画未達成の影響もあり、総利用高は配送で計画比96.6%（前年比95.8%）、デポで計画比97.8%（前年比99.2%）といずれも計画を下回りました。2021年度の消費材改善プロジェクトで要望した「加工米飯」をテーマに、那須山麓米を使った冷凍おにぎり「こむすびちゃん（重茂産わかめ・さけ・ごま）（生産者：全国農協食品㈱）」を、組合員参加で開発しました。2023年9月より取組みを予定しています。組合員同士のたすけあいのしくみである「エコロたすけあい制度」の加入をすすめ、加入率（配送・デポ）は68.4%と、前年度

並みとなりました。地域におけるたすけあいの推進として、福祉法人悠遊の支援を行い、3,295人から621万5千円の寄付となりました。そのほか、コネク推進機構の立ち上げ、「子どもたちの未来をつくるスーパー デポキャンペーン」の実施、地域の団体と連携した政策提案運動などが報告されました。

第2号議案

金丸専務理事より、地域でのSDGsの実践の重要性を踏まえ、食（都市農業や農村の振興）、エネルギー（脱原発や再生可能エネルギーの推進）、ケア（介護や福祉、医療、住まいを含めた生活支援）、働く（協同労働）を基軸として、未来の世代に向けた地域社会をめざすことが提案されました。また、投資計画として、板橋センターの建設、冷凍冷蔵庫設備のリニューアル、㈱生活クラブたまごへの出資、㈱阿寒マイクログリッドへの追加融資が説明され、23年度運動方針・事業計画が承認されました。

質疑応答

「生産者の事業継続のための生活クラブの対応」、「エコロたすけあい制度の意義を伝える活動のあり方」、「共済の満期年齢引き上げ」、「早期脱退者の調査状況」、「ワーカース・コレクティブとのパートナーシップ」など、今後の議論につながる活発な質疑が行われました。

第55回通常総代会 議決結果				
第1号議案	2022年度活動・事業報告および決算、剰余金処分の承認について	賛成 264	保留 1	反対 0
第2号議案	2023年度運動方針および事業計画、予算の決定について	賛成 262	保留 3	反対 0
第3号議案	役員退職慰労金について	賛成 260	保留 6	反対 0
第4号議案	定款の改定について	賛成 265	保留 1	反対 0
第5号議案	次期役員選挙管理委員の選任について	賛成 264	保留 2	反対 0

FEC 自給圏：食（Foods）、エネルギー（Energy）、福祉（Care）を地域内で自給しようとする構想。内橋克人氏（評論家、旧2012国際協同組合年全国実行委員会 委員長）が提唱

● 出資金配当について ●

出資金配当金は、2022年度末の出資金を高に配当率を乗じて計算します。出資金配当金の受領金額は、20.42%の源泉所得税が控除された後の金額です。出資金配当金の支払いは、各組合員の出資金への振替によって実施します。

- ・ 出資金配当率：0.5%
- ・ 出資金配当金の支払い：2023年7月26日に、各組合員の出資金に充当されます
- ・ 対象：2022年度末に在籍し、かつ総代会当日在籍組合員



2009年からのなので、14年前です。
豊崎 何かきっかけがあったのでしょうか。

島田 世田谷区砧地域の小泉農園で農業をしていた、小泉さんに紹介されました。小泉農園で生活クラブの組合員が育てて収穫した小麦を、製粉したいと持ち込まれたのがきっかけです。その時に小泉さんから「畑が道路整備で無くなるので、経営に新しくできる生活クラブのお店に野菜を納品してもらえないか」と相談されて、近いので引き受けることにしました。

野島 そうだったんですね。
島田 農産物を販売するだけではなく、組合員や生産者同士の交流ができるのもいいなと思って参加を決めました。

交流の場をつくりだす「農」

豊崎 組合員や生産者同士の交流はどのようにすすめられていますか。
野島 私が事務局を務めている、生活クラブ提携都市農家の会「農」

は、生活クラブ東京の提携生産者が集まった任意団体です。東京都と埼玉県の青果物の生産者が加入をしています。生産者同士の交流や研修を行ったり、組合員との交流や見学会の受け入れなどを行っています。
豊崎 島田さんは「農」に入っただけで、勉強になりましたか。

島田 ほかの「農」の会員の方は農地が広くて、場違いかなと感じていましたが、研修や企画に参加して交流をしたり、農法を学んだりして、勉強になっています。
豊崎 コロナ禍での変化はありましたか？

野島 まず、役員会がほぼオンラインに、年1回の研修もデポーターの生産者と組合員の交流も中止になりました。実際に顔を合わせて人と接することが希薄になり、失ったものは大きいですね。

豊崎 生産者との交流会や畑の見学、消費材Step UP点検などで、無農薬・減農薬栽培のための工夫を聞くのが楽しみでした。直に見る、話を聞く、現場に行くのは大事ですね。

援農で農業を知り生産を支える

豊崎 多摩きた生活クラブでは援農もしていますが、島田さんは援農の受け入れはしていますか？
島田 5年ほど前から援農ボランティアを受け入れています。試行錯誤して、今は比較的畑が広く、

生産者と組合員の連携が新規就農者を育てる

豊崎 世襲で農地を継ぐのだけではなく、生産者側の間口もひろがっているようですね。「農」にも新規就農の方はいますか？
野島 東京都には新規就農をめざす人のための研修制度があり、新規就農も増えています。研修を受けてきた赤塚さんを、武蔵村山グループのメンバーが新規就農まで育て、現在は「農」のメンバーになっています。

赤塚さんは独立した当初とても大変でしたが、助けを求めると組合員が援農に来てくれるので、本当にありがたいと言っていました。
豊崎 今はチームを作って、赤塚さんからの援農の呼びかけに、できる人が応えています。

野島 せっかく生産者グループに参加しているので、組合員や先輩農業者との関係性の中で育っているってほしいですね。
豊崎 新しい人が出てきているのは一つの希望ですね。

野島 新規就農の方は農法にもこだわっていて、有機JAS認証をとっている方もいます。ただ、島田さんと同じく規模は小さいですね。食料基地としての位置づけは



大切ですが、地域に開かれた空間という視点は、都市農業に欠かせません。
豊崎 以前、生活クラブ運動グループの「農作業受託ネットワークNPO法人たがやす*」から「この地域の環境を守りましょう」と呼びかけると、近所の人が援農や学習会に来てくれると聞いて、すごく納得しました。都市の中の農地は環境を守り、働く場や交流の場にもなります。ただ、生産者と消費者の双方の理解が必須なので、お互いの状況を話し合うことが大事ですね。

島田 都市農業の役割として、東日本大震災を契機に防災の視点も注目されています。世田谷区内に点在しているような小規模の農地であっても、発災時の延焼を食い止めたり、救済物資を受け入れる場になったりする、「都市に必要な空間」として農地が認識されるようになってきています。
野島 新規就農には行政による補助も重要です。「NPO法人たがやす」のように町田市と連携して、援農ボランティアの育成や農産物の出荷代行などを事業としている事例もあります。生活クラブが毎年東京都の予算への要望として都市農業の支援を求めている、新規就農者への支援も実現しています。

作業期間が5月末から11月末頃と長いサツマイモ栽培を中心に、余った時間で他の作業をしてもらいように、受け入れの体制を整えています。盛りだくさんの作業をお願いしても、こちらが思った以上にこなしてくれて、本当に助かっています。
野島 一度伺った時に、とても慣れている方がいるなと思いました。

島田 そうなんです。新しい方が一人二人いらしても慣れていく方が教えてくれるので、即戦力になっています。
豊崎 みなさん生活クラブの組合員ですか？

島田 23区南生活クラブの組合員です。毎回10人前後が来てくれていて、募集や調整も全て生活クラブの方がしてくれています。
豊崎 ボランティア同士の交流もありますか。

島田 コロナの前までは12月の援農の時に、収穫した野菜で作った汁物と、うちでついたお餅で食事会をしていました。
豊崎 コロナ禍の間も援農ボランティアは継続できましたか？

島田 緊急事態宣言の期間は中止しました。それ以外は外の作業でもあり、距離を保つことに配慮して再開しました。でもその頃は4、5人の参加でした。自転車か徒歩で来られる方を募集していました。
豊崎 コロナがあっても5年間続いている、関係性の強さを感じま

都市農業がつくり出す地域の豊かさ

豊崎 これから地域の中で新しく挑戦したいことはありますか。
島田 保育園や高齢者クラブは受け入れてきたので、次は近所の障がい者福祉施設と連携できないかと考えています。いろいろな世代、暮らし方の人の参加で、地域に開かれた農園にしていきたいです。

うちの場合は製粉業で製造した麦茶やきな粉を近隣の方が買いに来るので、農家は個人経営なのもあり、考え方もいろいろですね。「農」で個人経営者をまとめていくのも大変だと思います。
豊崎 地域によっても違いそうですね。

島田 同じ地域でも農家によって考えは違うので、緩やかに大きくまとまるようなつながり方がいいですね。
豊崎 ほかの農家とのつながりは、新たな選択肢のヒントになりそうです。

野島さんは今後「農」でやってみたいことはありますか。
野島 「農」の野菜を都内全デポーターで取り組むのが夢なのですが、物流が課題です。あとは、デポーターの生産者と組合員の交流を再開したいですね。組合員やワーカーズとの顔の見える関係を通して、市場には出回らないような規格の野菜を生活クラブで扱う理由や、畑でできた野菜を食べ切る意義を伝

すね。援農ボランティアを始めたきっかけはありましたか。
島田 何か交流がしたいと相談されて、親子向けの収穫体験を開催したので、結構大変でした。それを見て23区南の前理事の望月さんから「農業は遊びではないのだから、ボランティアにしてはどうか」と提案されました。それで単発の収穫体験をやめて、年間を通して農業に関われる援農ボランティアを始めました。

豊崎 多摩きたで援農ボランティアを始めたのは、武蔵村山グループの生産者の荒幡さんが倒れて、一緒に農業をしていた息子さんから「助けてください」という発信を受けたのが最初でした。呼び掛けに多くの人が集まり、気持ちのある人がたくさんいるのを実感しました。今では地域の居場所のような存在にもなっています。
野島 それもいいですね。

島田 都市農業は近隣の方に理解してもらわないと、存続できないですね。葉は落ちるし、鳥や虫もいます。約30年前までは柵で囲って農地を守っていました。でも今は扉を開いて、人に来てもらう事が農地を守ってくれます。島田農園は生活クラブの組合員に「農地」という場を提供する提携生産者として、お付き合いしていければと思っています。
豊崎 農業のあり方も変わってきていますね。

えていきたいです。
豊崎 島田さんが組合員との交流でやってみたいことはありますか。
島田 野菜がたくさんとれた時の農家の食べ方や、梅干しや白菜漬けをつくる講座をやってみたいですね。

豊崎 需要がありそうですね。
島田 作業は簡単なので、おいしくなるのを待つことも含めて工程を知ってほしいです。あとは、近隣の農家に声を掛けて「農」のメンバーを増やしたいです。デポーターに出荷して、交流をしてほしいな人を探していきたいですね。
豊崎 都市農業って本当に難しいと思っていたのですが、島田さんの作るだけではない農業というありかたを聞いて、希望が見えました。

生きもの調査を畑で何年かやってきて、自分の体は食べ物でできているので、食べ物で作られる環境を知ることが大事なんだと感じてきました。それと共に、住んでいる地域に愛着を持つ要素の一つが農空間でもあり、都内にそういう場を残していくことは、とても貴重だと思いました。



* 農作業受託ネットワーク NPO法人たがやす：農業の担い手不足や高齢化による農地の減少を課題として、2002年に町田市で設立されました。主な事業として①人手不足の農家への有償ボランティアの紹介 ②援農者研修農園・体験農園の開設および町田市の研修農場の管理運営 ③地場野菜直営所運営とデポーターへの地場野菜の配送代行 などを行っています



Q わたしの声 Q & A

Q: プラスチック削減の観点から、デポーでお米や石けん、調味料などの量り売りをやってほしいです。

A: デポーでの包装プラスチック削減へのご提案をありがとうございます。プラスチックの削減は将来への大きな課題と考えています。

生活クラブ連合会では、石けん類の量り売りについて検討し、東京では、2022年8月からデポー石神井にて液体石けん類の量り売りのモデル取組みを開始しました。ハンドソープ・ボディシャンプー・キッチン用液体せっけん・洗濯用液体せっけんの4種類で実施しており、約42%のプラスチックが削減されています。環境負荷軽減と石けん類の利用につながる取り組みとして検証し、今後の方針を検討していきます。

ほかにもお弁当を紙容器、芋類や果菜類などを未包装や紙袋に入れて店頭に並べる工夫をしているデポーもあります。量り売りには衛生管理の観点から施設整備などの課題もありますが、今後できることから取組みをすすめていきます。

6月 理事会報告 議事抜粋

【第1回】●理事長、副理事長、専務理事、常務理事の互選について ●代表理事の選任について ●2023年度理事会日程及び議長、副議長の確認について ●2023年度東京常任理事の役割分担および担当事務局

【第2回】●2022年度監査意見への回答 ●韓国住民ドゥレ生協 定期交流会企画について ●2023年度個別役員報酬の決定について ●住宅新会社設立に向けたスケジュール変更について ●パスレル保谷 401号室の売却について

東京理事の リレーコラム

「銀鮭に飼料用米！」



5月末に宮城県南三陸町志津川湾の養殖業を視察してきました。生活クラブの水産政策（2008年策定）を見直すプロジェクトの一環です。消費材名でいうと「宮城県産生ごんざけ切り身（骨取り）」の銀鮭の産地です。志津川湾は東日本大震災ですべての養殖施設が流されました。復興に向け漁協では「みんなで豊かになろう。周りの人のことを考えよう。分かち合おう。環境や次世代のことを考えよう」と話し合いと実験を重ねながら、持続可能な漁業を再構築してきました。そして、ASC 認証（国際養殖認証）の取得にまで至り、未来に希望が持てたことで後継者が増えました。

銀鮭の養殖は1975年に志津川湾で始まり、今では全国の銀鮭水揚げ量の9割近くを宮城県産が占めます。餌は環境に負荷の少ない固形配合飼料で、2018年からは宮城県産の飼料用米を配合して国産原料の割合を増やしているそうです。北海道の天然の秋鮭の水揚げ量はここ20年で1/4にまで減っています。魚介の安定供給のために養殖の存在を無視できなくなってきた情勢の中、生産履歴の明らかな養殖魚介の取組み、そして産地との提携の意味を改めて考えた視察となりました。

（生活クラブ東京 理事長 加瀬 和美）

..... 切り取って下の部分を提出してください



わたしの声 カード

生活クラブや消費材への意見・要望、企画申込みはこの用紙で。

回答は、組合員活動の経験をいかして専任スタッフが答えています。

氏名	電話番号	提出日 /
センター デポー	組合員 コード	

〈お願い〉ご記入の内容について該当項目に○をつけてください。
 ①提案・要望・質問 ②みんなに伝えたいこと ③ジョイエスの感想 ④企画申込み ⑤その他
 ●質問には2週間程度でお答えしていますが、詳しい調査が必要な場合などさらに時間をいただくことがあります。
 ※事故品の連絡は現物を保存のうえ、すぐにコールセンター・デポーにお電話ください。生鮮品の報告は翌週末です。
 ※配達をご利用の方は配達便に、デポーをご利用の方は各デポーのフロアワークスまでご提出ください。

ご希望のイベント名を
ご記入ください

※ご記入いただいた情報は目的以外、または次の条件以外では第三者に開示しません。
 ①ご本人の同意がある時 ②ご本人と特定できない状態で開示する時 ③生活クラブの関連団体、提携先より回答することが望ましい場合。

生活クラブ東京 WEB サイトからも提出できます。みなさんの声をお待ちしています。

展示即売会

スーツ・ワイシャツのお仕立て

●生活クラブ赤堤館 常設会場

10:00 ~ 16:00 定休日：火・水・日（祝日営業）
 会場：生活クラブ赤堤館（世田谷区赤堤 4-1-6）
 問合わせ：03-3324-4502
 （夏季休業：8月13日～20日）

スーツ・ワイシャツ・ブラウスのお仕立ては通年赤堤館で受付いたします。クールビズで役立つパンツのみ、半袖ワイシャツもお仕立ていただけます。約4週間でお届け。

●きく屋宝石店

ジュエリー修理 & リフォームフェア

9月6日（水）～19日（火）10:00～19:00
 ※日曜日、祝日は18:30まで
 会場：（株）きく屋宝石店 渋谷本店
 （渋谷区渋谷 1-8-7）

思い出の詰まった宝石が、生まれ変わって輝き続けます。さまざまな修理、お直しに対応しております。他店でご購入の商品につきましても、修理をお受けいたします。

●東京真珠 クリアランスセール

9月14日（木）～24日（日）11:00～19:00 定休日：火
 会場：東京真珠（株）銀座座席ホール
 （中央区銀座 6-16-3）
 半期に一度のクリアランスセール開催！
 最大70% OFF の PRICE DOWN！
 （赤札・一部商品を除く）この機会にぜひ！

【パスポートカード会員募集】

このカードのお申込みで東京真珠銀座店において生活クラブ展示会と同様のサービスが受けられます。

特典内容

- ①カードを提示するだけで定価の30% OFF（一部除外品あり）
- ②ご購入いただいたパールネックレスの糸替え加工代金を永久サービス など

●天地堂 ランドセル

人気カラーから品切れになります。ご注文はお早めに！ランドセルお買い上げの方に「木製ネームタグ」「防水用ランドセルカバー」をプレゼント。カタログご希望の方は、お電話または下の二次元コードより WEB でお申し込みください。



事業企画課
TEL 03-5426-5206

協同村

豊かな自然の中で、農業体験やキャンプなどが楽しめる生活クラブの施設です。

入材料：510円（4歳～小学生310円）
 ※繁忙期（7/1～8/31）はプラス200円
 駐車料：600円/1日 休村日：火・水
 ※7/15～8/31は休村日なし

【ワーカーズ・コレクティブ草の実との共催】

●石窯ピザ焼き体験

8月6日（日）11日（金）12日（土）20日（日）
 9月10日（日）16日（土）17日（日）18日（月）
 23日（土）24日（日）11:00～13:00
 参加費：1,600円/1人
 ピザ生地を伸ばし、トッピング、石窯に入れて焼きます。

●石窯で焼くライ麦パンと スモークチーズ

8月5日（土）10:00～15:00
 参加費：2,500円/1人
 生地ねり、醗酵、成型、窯入れから窯出しまで行います。空いた時間でチーズをスモークします。オプションでお昼にピザもあります。（要予約別料金）

●藍の生葉染

8月6日（日）10:00～12:30
 参加費：1,500円/1人
 藍の生葉を使って布を染めます。素敵な空色に染まります。（布代別料金）

●多摩産のチーズを使って 石窯ピザ焼き体験

8月13日（日）11:00～13:00
 参加費：2,300円/1人
 ピザ生地を伸ばし、多摩産のチーズとはちみつをトッピング、石窯に入れて焼きます。

【NPO 法人地球野外塾との共催】

●作って泊まるシェルターキャンプ

9月17日（日）9:30～18日（月）16:00
 参加費：12,000円/1人
 シェルターを作って泊まってみよう！ピンチの時に自分の身を守る方法を体験します。

協同村ひだまりファーム

あきる野市戸倉 863
 TEL 042-596-0103

生活クラブの学校

会場記載がない場合は生活クラブ館開催（世田谷区宮坂 3-13-13）
 受講料記載がない場合は無料

【東京ワーカーズ・コレクティブとの共催】

●小さな単位で事業する!アソシエーションだるま舎と合同会社アーバンズの場合（オンライン併用）

8月5日（土）14:00～16:00

講師：平山昇さん（アソシエーションだるま舎）
 西浦勝之さん（アーバンズ合同会社）

会場：ASKビル（新宿区歌舞伎町 2-19-13 4F）
 話し合いの単位を10人以内にするという「だるま舎」と、5人の若者が集まり起業した「アーバンズ合同会社」を紹介します。

東京ワーカーズ・コレクティブ
 協同組合
 TEL 03-3207-1941

【「食と農」政策委員会主催】

●都市農業のいま（オンライン併用）

9月6日（水）10:30～12:00
 講師：榊田みどりさん（農業ジャーナリスト）
 東京産野菜をこれから先も食べ続けるために、都市農業の実態を知り、市民ができる取組みについて考えます。

【環境政策委員会主催】

●飯館電力バーチャル視察（オンライン併用）

9月8日（金）14:00～15:40
 ナビゲーター：千葉訓道さん（飯館電力 取締役）
 米澤一造さん（飯館電力 取締役）
 原発事故後12年が経過した福島県飯館村の現状を、生活クラブでんきの生産者でもある飯館電力のお二人より伺います。

政策調整部
 TEL 03-5426-5204

食農共育講座

【NPO 法人コミュニティスクール・まちデザイン（CS まちデザイン）との共催】
 受講料は組合員価格

●たべものラボ 実践講座

時代とともに変わる牛乳の評価の裏側を探る

9月21日（木）10:30～12:30
 講師：近藤恵津子さん（CS まちデザイン 理事長）
 受講料：1,150円
 牛乳はなぜ「健康づくりの万能食品」の位置づけから、「体に悪い」まで評価を下げたのか。歴史をたどりながら牛乳の一つの食品として、どう取り入れるか考えます。

●たべものラボ

食を楽しむ料理特別講座

9月30日（土）10:30～13:30
 講師：山田郁子さん（CS 料理講師）
 受講料：4,900円
 季節の食材を使った、おもてなしにもなる和食をつくりましょう。メニューは大分県の郷土料理の茶台寿司、いちじくの白和え、菊花豆腐のお吸い物です。

NPO 法人CS まちデザイン
 TEL 03-5426-5212

情報のバリアフリー化をすすめよう!

「音訳」という言葉をご存じでしょうか?

生活クラブには、視覚に障がいのある方や文字がよみづらくなった方に「生活と自治」や「ジョイエス」の音声版をお届けする「リーディングサービス」があります。すべての組合員に生活クラブの理念を伝えて共有するために必要なサービスです。

この音声版の製作を担うのが、生活クラブ東京の音訳ボランティアグループ Yomu²。エッコロたすけあい制度*の暮らしのサポートのひとつとして活動しています。

音訳は、「読み」「校正」「編集」作業から成り、役割分担して完成させる共同作業。聞き手にわかりやすく伝える読み方を考え、日々工夫しています。

音声だけで伝える音訳技術はすぐに身につくものではなく、奥が深くやりがいのあるボランティア活動です。現在は全員がフルに活動できない状況にあり、この秋、新メンバーを募集することになりました。一緒に学んで、有意義なボランティア活動に参加しませんか?



▲それぞれの自宅で録音。
約2週間で完成

録音で使用する機材▶

Yomu²メンバーより



あなたの声を音訳の世界で役立ててみませんか 音訳初心者講習会のご案内

受講料
無料

【説明会】必ずご参加ください (オンライン併用)
9月20日(水) 10:00 ~ 12:00

【講習会】会場参加のみ (全6回)
10月2日(月) 13日(金) 16日(月)
11月1日(水) 6日(月) 10日(金)
10:00 ~ 12:00

【録音実習】会場参加のみ (どちらかの日程)
11月13日(月) または 16日(木)
10:00 ~ 15:00

開催場所: 生活クラブ館 (世田谷区宮坂 3-13-13)
応募要件: 原則、上記のすべての日程に
参加できる方

詳細・お申込みは
こちら▼



リーディングサービスのお申込み・問合わせ

音声版を希望される方は、
下記共済課までご連絡ください。
サービスを必要とするお知り合いの組合員の方にもお知らせください。

たすけあいネットワーク事業部共済課
TEL 03-6862-5217

利用者の声

設立当初からリーディングサービスを利用しています。
普段利用している消費材について情報を得られて助かっています。
さまざまな考え方があることや生活クラブのこだわりについて家事などをしながら聞いて便利です。

まち町田南組合員 風間幸子さん

*エッコロたすけあい制度: 暮らしの中の「ちょっと困った」を組合員同士でたすけあう生活クラブ独自のしくみです

生活クラブ東京の
最新情報を
WEB・SNSで発信中!

生活クラブ
東京



WEBサイト



Facebook



Instagram